令和３年度授業改善プラン　　音楽科

大田区立大森第四中学校

音楽科における令和２年度授業改善推進プランの検証
取組における成果と課題

・授業にはどの生徒も落ち着いて意欲的に参加できる。特に合唱には積極的に取り組む生徒が多い。
・楽典的な知識・理解については、小学校からの指導も含め全般的に不足している。
・鑑賞については意欲をもって取り組み、深く楽曲を理解しようとする姿勢がみられる。
・創作については、全学年で取り組むことができた。
・器楽について、全学年でリコーダーを購入し、各学年で指導することができた。

授業改善のポイント

１　授業に意欲をもって取り組める生徒がほとんどである。
　→今後も継続して生徒たちが意欲をもって取り組める教材教具の開発・研究・工夫を行う。
２　楽典的な知識理解の不足。
　→３年間を通して段階的に理解が進むよう、計画的に指導していく。
３　鑑賞については意欲的に取り組める。
　→多くの楽曲の中から幅広く題材をとり、生涯を通じて音楽鑑賞の楽しみを味わえるようにしていく。
４　創作活動の不足。
　→１年次では即興的な創作、３年次ではコードに基づいた作曲など３年間の学習のまとめとして位置付け、創作活動に取り組んでいく。
５　器楽等幅広い表現活動の不足。
　→１年次早期から全員にリコーダーを購入させ、各学年で発表の機会を設ける。
　２年生ではデュエットによるリコーダークラス発表会、３年次ではギターの実技演奏、三味線の実技演奏に取り組む。クラシックの楽曲にとどまらず、ポップス、ポピュラーフォークミュージックの楽曲も教材として取り入れていく。
６　学習指導要領にのっとり、和楽器(三味線)の演奏活動に３年間に一度、全員の生徒が取り組む。

音楽科の授業改善策

＜知識・技能＞
　音や音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し生かしていくために、楽典的な知識・理解を深め、楽曲を深く味わい表現する活動に取り組む。
　音楽表現の基礎的な技能を身に付けるために、歌唱、リコーダー、ギター、三味線等の演奏技能の習得に取り組む。
＜思考・判断・表現＞
　音楽を楽しく聴取、鑑賞し、その良さや美しさを味わうために、年間を通して様々な楽曲の鑑賞に取り組む。
　知覚したことと感受したこととの関わりについて考えさせ、歌唱表現を工夫させる。
＜主体的に学習に取り組む態度＞
　音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとするために、教材教具の開発・研究・工夫に取り組む。音楽活動を楽しみながらも主体的協動的に歌唱の学習活動に取り組めるようにする。